

十日町市第一次総合計画の総括

平成29年2月

十日町市

(総務部 企画政策課)

< 目 次 >

◇第一次十日町市総合計画の検証・総括

1. はじめに	1
2. 課題の整理と進捗管理	1
3. 評価の方法	1
4. 検証	2
5. 総括	3

◇第一次十日町市総合計画項目別評価・検証

資料1. 後期基本計画 達成度報告

(1) 達成度報告の作成趣旨	1
(2) まちづくりの目標値の達成状況	2

資料2. 第一次十日町市総合計画成果報告

(1) 地域に誇りと愛着をもつ創造性豊かな人づくり	1
(2) 雪国文化や地域資源を活かした活力ある産業づくり	6
(3) 緑豊かな自然環境や雪国の風土と調和した快適な生活環境づくり	10
(4) 子どもからお年寄りまで安全・安心・元気に暮らせる社会づくり	14
(5) 人・自然・産業とふれあえる、もてなしの心で迎える体験交流づくり	18
(6) 基本構想の実現に向けて	20

第一次十日町市総合計画の検証・総括

1. はじめに

平成19年4月に始めました「第一次十日町市総合計画」は、平成28年3月をもって9年間の計画期間を終了し、4月から「第二次十日町市総合計画」が新たに始めました。

「十日町市第一次総合計画」では基本構想に基づき、6つの基本目標と21の政策を掲げ、十日町市の総合的なまちづくりの推進に向け、取り組んで参りました。前期基本計画では6章61施策について実施し、後期基本計画では前期基本計画の政策や施策をベースに、十日町市の現状と課題を整理しました。その中で、社会・経済情勢の変化などを踏まえて修正を加え、6章67施策へ内容を変え、基本構想の実現に向け、各事業の展開を行ってきました。

本件については、これまでの取り組みについて成果をまとめ、評価・検証することで「第一次総合計画」の総括として、とりまとめたものです。

2. 課題の整理と進捗管理

前述の通り、前期基本計画については、後期基本計画の策定時において、現状と課題の整理を行い、計画の見直しを図りました。後期基本計画においては、それをもとに各施策における実施計画を策定し、事業費の決算の執行状況とまちづくりの目標値（5年後の目標値）を設定した施策の達成状況をとりとまとめることで、進捗管理を行ってきました。

3. 評価の方法

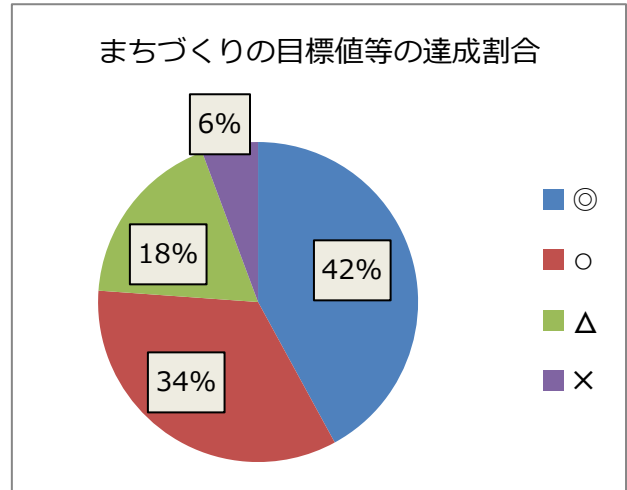
今回の評価については、第二次総合計画の作成にあたって平成26年度までの検証をもとに、総合計画の各施策をキーワードごとに、全88項目で評価することとしました。また、評価の方法については、関連する主な事業の実施をとおして、それぞれのまちづくりの目標値に対しての達成度と事業の実施状況を取り組みの成果として、評価しています。

評価の主な基準としては、後期基本計画の基準（◎100%、○～50%、△～20%、×～0%）で統一し、評価を行いました。

4. 検証

(1) まちづくりの目標値等の達成状況・全体

		まちづくりの目標値等(全88項目)	
達成状況	◎		37
	○		30
	△		16
	×		5



全88項目のうち、◎（達成度100%以上）の項目については40%以上となりました。また、○以上（達成状況50%以上）の項目については、全体の80%近い割合となり、おおむね成果が得られました。

(2) まちづくりの目標値等の達成状況・基本目標別

基本目標		(1)地域に誇りと愛着をもつ創造性豊かな人づくり	(2)雪国文化や地域資源を活かした活力ある産業づくり	(3)緑豊かな自然環境や雪国の風土と調和した快適な生活環境づくり	(4)子どもからお年寄りまで安全・安心・元気に暮らせる社会づくり	(5)人・自然・産業とふれあえる、もてなしの心で迎える体験交流づくり	(6)基本構想の実現に向けて
達成状況	◎	4	9	8	8	2	6
	○	7	4	6	8	4	1
	△	1	6	2	3	2	2
	×	2	1	1	0	1	0
合計(88項目)		14	20	17	19	9	9

それぞれの基本目標別に見ていくと、「(4) 子どもからお年寄りまで安全・安心・元気に暮らせる社会づくり」における、主に保健・福祉・防犯・防災の分野においては、×(0%)の項目がなく、○以上(達成状況50%以上)が約85%となり、最も達成状況が良い分野となりました。特に、度重なる自然災害からの復旧における取り組みの成果が得られたほか、交通安全・防犯対策の推進が図られた結果となりました。

また、「(2) 雪国文化や地域資源を活かした活力ある産業づくり」における主に農業・産業の分野においては、△以下(達成状況50%未満)が35%となり、最も達成状況が悪い分野となりました。しかし、その一方で産業の分野においては、地域ブランド構築事業による新商品の開発やそれらの開発支援、産学連携推進事業の一つ、十日町ビジネスコンテストの開催など新しい取り組みの成果もありました。「十日町市第二次総合計画」においては、達成状況の悪かった政策について、振り返りを行い、目標値の的確な設定や重点的な取り組みを行っていくことが必要と考えられます。

5. 総括

「十日町市第一次総合計画」は、旧十日町市、川西町、中里村、松代町、松之山町の5市町村の合併に伴い、それまではそれぞれの市町村において総合計画を策定していたものから合併後初めて策定された総合計画であり、各地域の市民が目標を共有できるよう、まちづくりの目標値の設定や実施計画の策定を行いました。その中で、目指すべき十日町市の将来像に近づけるよう、各施策に基づいた事業の実施を行い、歩みを進めて参りました。

その結果、各施策の達成には多少のバラつきはあるものの、約80%近いの項目において一定の成果が得られることとなりました。また、達成状況が優れなかった残りの約20%の項目についても、今回の取り組みの成果を分析・検証し、関連する政策・施策を今後の「十日町市第二次総合計画」の中で、引き続き取り組んで参りたいと考えております。

こうした9年間の中で大地の芸術祭をベースとして、十日町市が盛んになり、発信力のあるまちづくりが推進されることとなりました。また、まちづくり基本条例の作成に至り、まちづくりの核となる体制づくりができ、協働のまちづくりへとつながっていきました。そうした成果が、十日町市の想定した数値には及ばなかったものの、当時の国勢調査時（平成12年）に予想された平成27年の定住人口54,529人を、微増ながら54,917人と上回り、人口の減少の抑制につながったものと考えられます。同じく世帯数においても、予想された18,437世帯が18,598世帯となり、少ないながらも影響を与えたと考えることができます。

今後は、「十日町市第二次総合計画」の目指すまちの姿「選ばれて住み継がれるまちとおかまち」の実現のため、総人口の減少の抑制につながる政策・施策を講じて、愛着と誇りをもって住んでいけるまちとなるよう、各事業の実施に取り組んで参りたいと考えています。